



News Letter

No.38

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2019年12月31日発行

【本号のトピックス】

4,000名の会員とともに／脳卒中ガイドブックのご案内／
第7回研修会報告／30周年記念大会・式典等案内／研究倫理の啓発⑧
国際渉外だより／委員会だより／支部だより／学会だより

日本老年歯科医学会 4,000名の会員とともに

会員数 4,000 名突破を踏まえて

理事長 佐藤裕二

設立 30 周年の節目に会員数が 4,000 名を超えたことは非常に喜ばしいです。ここ 10 年での会員数の伸びは著しく、日本歯科医学会の分科会で最も勢いがあります。本学会が時代の波に乗っていることもあります。歴代の理事長・役員の方々的心血の賜です。私は理事長として、現執行部はじめ会員各位の代表として、おごりを捨てさらに謙虚に、本学会がますます社会に貢献できるよう頑張ることを誓います。

4,000 名以上の会員の 9 割が出席する 大会を目指して！

副理事長 羽村 章

故 園山 昇先生が大会長の学術大会をお手伝いしたのが 1989 年でした。そのときの会員数は 500 名強であったと記憶しています。2005 年、稲葉 繁先生が大会長であった大会もお手伝いさせていただきました。そのときには 2,000 名の会員獲得を目標としていました。2015 年に私が大会長であった学術大会では 3,000 名に手が届く会員数でした。会員数 3,000 名までは、ほぼ 10 年で 1,000 名の増加でしたが、ここきて急速に伸びているのは本学会の存在価値が高まっているからでしょう。学術大会の参加者を増やすことにも尽力したいと思います。

4,000 人の個展会場としての学術大会

副理事長 那須郁夫

日本の人口が減り始めて 15 年が経ちました。死亡が誕生を上回るのが理由です。そのなかで本学会は設立以来 30 余年、今も会員が増加しています。退会者より入会者が多いからです。話題の 4,000 人とは、会員のポピュレーションのことであって各会員個人のことではありません。学会の存在意義の第一は、会員に研究発表の場を提供することにあります。4,000 人の会員には、一人ひとりが自分のフィールドで高齢者研究をまとめ上げて、毎年大会で「個展」を開く権利があります。



各年度初めの会員数の推移



理事、監事、名誉会員の渡邊郁馬先生



委員会活動を下支えする幹事の皆さん

すべての会員の皆様の満足につながるように

総務担当 上田貴之

会員管理の担当である総務といたしましても、会員数 4,000 名を迎えたことはたいへんうれしく思います。引き続き、多くの方に仲間になっていただけるように情報を発信してまいります。一方で、残念ながら本学会を退会される方もいらっしゃいます。30 年の歴史をもつ本学会は、ベテランの先生方から初心者の先生まで、会員の層が厚いのが特徴です。すべての会員の皆様にご満足いただける会務運営を心がけていきたいと思っています。

会員 4,000 名を超えて

財務担当 渡邊 裕

会員 4,000 名を超えるということは財務状況が安定するということでもあり、財務委員としてはたいへん喜ばしいことです。一方、すべての会員に予算規模に見合った還元を行うには、バランスの取れた予算を立て、着実に執行していかなければなりません。本学会の会員はさまざまな分野の専門性をもっていることから、将来のさらなる発展も考慮しながら、偏りのない事業を展開していくために、気を引き締め直して責務を果たして参りたいと思います。

脳卒中患者への医科歯科連携に関するガイドブックのご案内

学術委員会委員長 水口俊介

本邦における脳卒中への対応は喫緊の課題になっています。脳卒中は発症による直接的な死亡が減少したとはいえ、脳卒中そのものの発症は増え続けていて、機能障害をもたらす最大の要因となっています。脳卒中急性期では医師による疾患の治療、全身管理が対応の中心となりますが、近年では歯科医師、歯科衛生士による口腔衛生管理、摂食嚥下リハビリテーション、口腔問題への対応が入院中の患者の呼吸器感染症予防、低栄養予防に寄与するとの報告がされるようになってきています。しかしながら、現在までに明確な根拠や具体的な介入方法が十分提示されているとはいえない状況です。そこで今回、医科と歯科の連携がどのような点で重要となるかを、歯科介入によるエビデンスの網羅的な検索からガイドブックを作成することで提

示することを目標としました。

本診療ガイドブックは、日本老年歯科医学会学術委員会とガイドライン委員会の所掌として「脳卒中患者への医科歯科連携がおよぼす効果に関するガイドブック作成ワーキンググループ」が組織され、作成されました。脳卒中急性期患者の歯科診療に携わる歯科医師、歯科衛生士だけでなく、脳卒中急性期患者の医療・看護にかかわる医師、看護師等にも有効利用されることを想定しています。会員の皆様においては、学会ホームページで閲覧いただけるよう準備しております（2月上旬予定）ので、脳卒中患者の口腔衛生管理や歯科診療における臨床判断の支援に、ぜひ活用していただきたいと存じます。

第7回高齢者医療臨床研修会開催報告

研修委員会委員長 片倉 朗

同委員・幹事 潮田高志

第7回日本老年歯科医学会 高齢者医療 臨床研修会が東京支部、埼玉支部、千葉支部、神奈川支部の共催で2019年12月15日（日）「ベルサール神保町アネックス」にて開催されました。

今年度は多職種連携委員会からの要請もあり、多職種連携をテーマにした演題となりました。「多職種連携のための入門研修」をテーマとして、鶴見大学歯学部附属病院薬局長 斎藤義夫先生から「高齢者の服薬管理と歯科治療で注意すべき薬剤」、多摩南部地域病院リハビリテーション室言語聴覚士の吉澤恭代先生から「言語聴覚士が行うリハビリテーションと歯科との連携」、杏林大学保健学部看護学科在宅看護学准教授 柴崎美紀先生から「在宅看護の役割と高齢者の食支援における課題」、新潟市医師会地域医療推進室室長 斎川克之先生から「地域包括ケア体制整備における歯科との連携、多職種連携の意義について」の4演題をそれぞれご講演いただきました。また株式会社クリニコより「『栄養ケア・ステーション』のご紹介」、昨年度から続く本学会での啓発活動として東京歯科大学老年歯科補綴学講座 上田貴之先生より「口腔機能低下症の管理と栄養」のミニレクチャーをご講演いただきました。

例年は3演題であった内容を、今回はミニレクチャーを含め6つの演題に増やしており、たいへんボリュームのある内容であったにもかかわらず参加者は熱心に聴講しており、講演終了後も個々に質問をしている参加者も多数散見されました。また、パネルディスカッションでは4名の演者に加え、本研修委員会の片倉委員長、金久委員にもご登壇いただき、多職種間における線引

きをなくした、風通しの良い討論が時間を余すことなく行われました。

今回の参加者は130名であり、当日はプレス2社の来場と5社の展示も行われました。東京都内を中心に近県からの参加者が大多数でしたが、地理的条件で今回の研修会に参加できない場合もあると想定し、主に西日本地区に向けて2020年3月29日（日）に大阪での研修会開催が予定されております。毎回多くのご参加をいただいている当研修会ですが、回を重ねるたびに参加者の向学や臨床に対する熱意も高くなっていると感じております。今後も当委員会は全身疾患に重きを置き、安全な歯科治療を提供できるような最新の内容の研修会を幅広い職種に提供できるよう研鑽してまいります。



満員となった会場の様子

第31回学術大会（学会設立30周年記念大会） 「健康長寿を支える老年歯科の誇りと決意」のご案内

第31回学術大会大会長 水口俊介

2020年、2度目の東京オリンピック開催という印象深い年に、日本老年歯科医学会は学会設立30周年記念の学術大会を開催いたします。会場は2020年4月に竣工となるパシフィコ横浜ノースといたしました。本学会の新たな出発点としてふさわしい新品の近代的な会場です。大会テーマは「健康長寿を支える老年歯科の誇りと決意」です。

2020年は学会となって30年が経過したところです。これまでの本学会の歩みや業績を振り返り、今後ますます重要となる本学会の使命を認識し、その遂行を決意するための節目の学術大会としたいと思います。

プログラムとしては「地域連携」「老年歯科という専門性」「国際」にフォーカスし、地域包括ケアシステム、糖尿病やオーラルフレイルに関する新知見、国外の高齢者歯科に貢献するための道筋をつけるような、9つのシンポジウム、3つのミニシンポジウム、3つの教育講演などを企画しています。また大会中には「学会設

立30周年記念式典」と「記念祝賀会」を行います。皆様、奮って次の学術大会にご参加ください。



学会設立30周年記念式典・記念シンポジウムのご案内

第31回学術大会（学会設立30周年記念大会）に合わせて、学術大会と同じパシフィコ横浜ノースで記念式典、記念シンポジウムを行います。また同日には記念祝賀会も執り行われます。

記念式典は本学会30年の節目に合わせて、来賓をお招きして厳かに、そして華々しく行われる予定です。式典の後、すぐに記念シンポジウムが行われます。シンポジウムは若手シンポジストが、学術大会のテーマである「健康長寿を支える老年歯科の決意」を一人ひとり語り、そして今後30年、この学会が何を予測し、何を課題とし、何をやるべきか？を議論し、明らかにすることを目指しています。

記念祝賀会の準備も着々と進んでいます。オペラ歌手の迫力ある生声によって学会の未来を勇気づけるオープニング、日本大学芸術学部吹奏楽による学会を元気づける演奏をバックに学会設立30周年の歴史を振り返るビデオを供覧します。また学会発展に貢献さ

記念式典・記念祝賀会実行委員長 河相安彦

れてこられた先生をお招きし、皆様と親交を深めていただく予定です。そして、理事・幹事による決意をまとめたビデオなど多くの企画を用意しております。会員の皆様と楽しく過ごしたいと思っております。学術大会同様に多くの皆様の参加をお待ちしております。



会場のパシフィコ横浜ノース

研究倫理の啓発⑧ ～倫理審査申請の手順Ⅰ～

倫理委員会副委員長 大野友久, 委員長 竹島 浩

今回は本学会で倫理審査を受審する手順についてご紹介します。前回の繰り返しですが、本学会に申請いただくのは所属施設に倫理審査の組織がない場合のみです。まず申請書類を作成します。書類は4～7種類で、臨床・疫学研究倫理審査申請書（様式1-1）、そして最重要書類の臨床・疫学研究計画書（様式2-1）もしくは様式2-2）、さらに倫理審査申請COI申告書（様式5）と倫理研修修了証の4種類が最低限必要になります。患者の同意が必要な研究の場合は、同意書・説明文書がさらに必要で、オプトアウトの場合は情報公開用文書が必要になります。オプトアウトとは、患者個別の同意が得られない場合に行う手続きで、研究に関する情報を公開し、研究への不参加の機会を保障することです。なお、迅速診査を希望する場合は迅速審査申請書（様式1-2）を併せて提出してください。上記書類

のひな型は学会ホームページに掲載してあります。また、作成例も用意してありますのでご活用ください。それらの書類を揃え、学会事務局まで郵送いただき、書類に不備がなければ審査が開始されます。

- ・倫理審査は基本的に所属施設で受審する
- ・倫理審査を担う組織がない場合のみ、本学会に倫理審査を申請する
- ・本学会の倫理審査の場合、書類を4～7種類揃えて提出する
- ・書類の書式は学会ホームページに作成例とともに掲載してある

国際渉外だより

The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress

参加報告

国際渉外委員会 堀 一浩

2019年10月23日から27日まで、台北市 Taipei International Convention Center にて、The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress が開催されました。本学会は高齢者医学にかかわるアジア圏の医療関係者が集まる学会です。私は初の参加でしたが、多くの分野から多彩な発表・テーマがあり非常に興味深く拝見しました。また、日本の高齢者歯科関係者から7題の発表がありました。

今回の学会では、台湾の老年歯科医学会とともにシンポジウムを行いました。日本からは、医科歯科大の水口俊介教授が口腔機能低下症についての解説を話されました。また、東京都健康長寿医療センターの平野浩彦先生が認知症高齢者に対する歯科治療のガイドラインについてをお話しされました。さらに、私が高齢者の嚥下機能と舌圧についての講演を行いました。他、アメリカから Dr. Zwetckhenbaum や台湾からも3名の演者が講演され、いずれも高齢者の口腔機能低下、歯科治療に対する熱心なディスカッションが交わされました。

この学会前には同じ台北でアジア・フレイルサルコペニア学会が開催されており、26日にはTAGD主催のInternational Gerodontology Conference が開かれるなど、台北では高齢者歯科ウィークとなっており、多くの先生方が台北へ来られていました。



日台の主な関係各位による集合写真および懇親会での写真

台湾歯科医師会・台湾老年歯科医学会 合同シンポジウム参加報告

広報委員会委員長 河相安彦

この度、台湾歯科医師会（TDA）および台湾老年歯科医学会（TAGD）主催で12月22日に開催された「2019 Evidence-based Health-care Issues on Prosthodontics Needs for the Frail Elderly」と題したシンポジウムにおいて、「Current evidence-based and application oral health care issues on the prosthodontics needs for the FRAIL elderly」という指定演題をいただき、シンポジストとしてお招きいただきました。当日は、TAGD 理事長の Andy Teng 教授、Kuan-Yu Chu 先生と河相の3名がシンポジストとして登壇し、最後のディスカッションではライフステージにおける補綴歯科の介入のあり方や、そのアウトカムについて参加者を巻き込み熱い議論が交わされました。今後も老年歯科医学にかかわるトピックで両国の交流を深めていくことの重要性を実感したところです。



シンポジウムでは質疑応答が熱く交わされました

台日第二回老年歯科学術交流サミットのご案内

国際渉外委員会 原田和昭

2020年3月8日（日）に台北で標記サミットを開催することとなりました。ぜひ多数のご参加をお待ちしております。
【2020 International Conference of Geriatric Dentistry】

日 時：2020年3月8日（日）8:20～12:00

【The 2nd JSG-TAGD Summit】

日 時：2020年3月8日（日）13:30～17:00

会 場：中國文化大學推廣教育部

参加費：本学会会員は NTD \$2,000 元（現地でのお支払いになります）

参加をご希望される方は、氏名、所属、連絡先など明記のうえ、2012tagd@gmail.com 事務局 Kathy 宛お申し込みください。参加者には出席証明を発行いたします。詳しいプログラムはTAGD HPをご参照ください。

<http://www.tagd.org.tw/>

委員会だより

ガイドライン委員会

委員長 服部佳功

患者と医療者、双方の意思決定を支援する診療ガイドラインは、エビデンスや益と害のバランスに係る最新の知識水準を反映させるべく、日々新たな知見の参照や、随時の改訂が欠かせません。これらガイドラインの保守・新規策定の業務を分掌するのが当委員会です。

日本医療研究開発機構の事業を受託した本学会の研究班は認知症者の歯科診療ガイドラインを策定し、2019年6月、医歯薬出版より「認知症の人への歯科治療ガイドラ

イン」を上梓しました。現在は別の研究班が「脳卒中患者への医科歯科連携に関するガイドブック」を公開準備中です。日本口腔内科学会、日本歯科薬物療法学会、日本口腔ケア学会と合同で作成した口腔乾燥症の新分類（案）は、学会設立30周年記念大会にて説明会が開催される予定です。改訂中の「摂食・嚥下リハビリテーションにおける診断支援としての舌機能検査法ガイドライン」（2013年策定）などと併せて、日々の臨床にお役立ていただけましたら幸いです。

| 支 | 部 | だ | よ | り |

愛媛支部共催セミナー
「第23回『口から食べたい』セミナー」開催報告

愛媛支部 高橋徳昭

2019年10月6日(日),松前総合文化センターにて,伊予歯科医師会主催による標記セミナー(メインテーマ「口から食べたい思いを最期まで支える心のコミュニケーション」)を開催しました。参加者は,多職種の方々を含め350名でした。

米山武義先生(静岡県米山山科クリニック院長)に「心のケアを大切に,高齢者の口腔ケアに係わってきた40年を振り返りかえって」,升田勝喜先生(愛媛県升田歯科院長)に「噛むバック!~咀嚼の回復から心の回復へ~」,永井康徳先生(愛媛県たんぼクリニック院長)に「『多職種連携のチームで取り組む食支援』~最期まで自分らしく生きるを支える意思決定支援~」と題してご講演いただきました。ディスカッションでは,スピリチュアルな部分まで踏み込んだ,多職種連携がキーとなる地域包括ケアシステム推進に向けた有意義なセミナーでした。



ご登壇いただいた先生方

岡山支部共催セミナー「岡山大学摂食嚥下障害研究会
食支援ネットワーク100回記念講演会」開催報告

岡山支部 江草正彦

岡山支部は,2019年11月3日(日)に岡山大学,岡山県の主催にて市民公開講座「岡山大学摂食嚥下障害研究会~食支援ネットワーク~100回記念講演会」をピュアリティまきびで開催しました。「食べ方に困ったらどうしましょう?」をテーマに,弘中祥司先生(昭和大学・スペシャルニーズ口腔医学講座教授)から「子どもの食べ方が気になる場合」,石田瞭先生(東歯大・口腔健康科学講座教授)から「親の食べ方が気になる場合」をご講演いただきました。医療・福祉関係の

計97名が参加されました。口腔機能発達不全や口腔機能低下の気づきについて,多職種でもできるポイントをわかりやすく解説していただきました。情報交換会では多くの質問や意見交換がなされ,たいへん有意義なセミナーとなりました。



講師の弘中先生(左)と石田先生(右)

静岡支部共催セミナー
「オーラルフレイルを理解する研修会」
開催報告

静岡支部 栗原由紀夫

2019年12月14日(土),口腔ケアネットワーク(三島)との共催で三島市民活動センターにおいて「オーラルフレイルを理解する研修会」を開催しました(参加者75名)。今回は,北海道大学准教授の渡邊 裕先生を講師に「地域包括ケアシステムの中でオーラルフレイルをどう活かすか」と題してご講演いただきました。当日は学会員ほか地元歯科医師会,行政関係者,地域で活動する多くの職種の方々にお集まりいただき,歯科からの情報発信と地域でオーラルフレイルをどう捉えていくかについて,活発な意見交換がなされました。



講師の渡邊先生にわかりやすくご講演いただきました

学会だより

第8回高齢者医療 臨床研修会を開催します!
「多職種連携のための入門研修」

日 時: 2020年3月29日(日) 13:00~17:00

会 場: 大阪歯科大学天満橋学舎創立100周年記念館

★詳細は,学会ホームページ(右記QRコードからもアクセスいただけます)をご参照ください。



学会だより

支部セミナーのご案内

★詳細は学会ホームページでご確認ください。

千葉支部主催セミナー「第4回公開研修セミナー」

日時：2020年2月9日(日) 13:00～16:30

会場：千葉県歯科医師会館 2F ホール

令和元年度 群馬支部主催 講演会・シンポジウム

日時：2020年2月9日(日) 13:30～17:30

会場：群馬県歯科医師会館 4F 第2会議室

令和元年度 広島支部セミナー

日時：2020年2月14日(金) 19:00～20:30(予定)

会場：県立広島大学サテライトキャンパス広島

岐阜支部共催セミナー

第1回岐阜県多“食”種連携研究会

日時：2020年4月18日(土) 13:00～17:00

会場：朝日大学医科歯科医療センター

2月1日は「フレイルの日」

2月1日が「フレイルの日」として、日本記念日協会に登録されました。

「フレイルの日」制定記念イベントが Smart Wellness Community 協議会主催で開催されます。

日時：2020年2月9日(日) 13:00～予定

会場：順天堂大学保健看護学部 1F 大講義室予定
(JR 三島駅徒歩8分)

本学会理事の平野浩彦先生も登壇されます。詳細は、本学会ホームページ等でご案内いたします。

IAGG アジア / オセアニア 国際老年学会議横浜開催決定！

2023年6月に横浜で IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議が開催されることになりました。

最長寿国として、アジアオセアニア地域の人たちとともに高齢化に関連するさまざまな諸問題の解決策について知恵を絞り、高齢者医療・介護・福祉に対する日本の最新の取り組みを発信していきたいと思っております。国際老年学

会議の後には第33回日本老年学会も開催されますので、皆様奮ってご参加ください。



上記 QR コードより関連サイトにアクセスいただけます

専門医合格者の紹介

宮本佳宏(愛大院・高齢者歯科)

黒嶋伸一郎(長崎大院・口腔インプラント)

福永暁子(聖隷浜松病院歯科)

井口達也(東歯大・摂食・嚥下リハビリテーション・地域
歯科診療支援科)

永尾 寛(徳島大院・口腔顎顔面補綴)

村上 格(鹿児島大附属病院・義歯補綴科)

山川道代(自治医科大・歯科口腔外科)

前川賢治(岡山大院・インプラント再生補綴)

加地彰人(あき歯科医院(愛媛県))

森 隆浩(広島大院・先端歯科補綴)

廣島広実(つくばセントラル病院歯科口腔外科)

鈴木史彦(奥羽大・歯科麻酔)

三野卓哉(岡山大院・インプラント再生補綴)

水口真実(岡山大院・クラウンブリッジ補綴)

松村圭祐(昭和大病院・高齢者歯科)

大房 航(鶴見大・高齢者歯科)

服部佳功(東北大院・加齢歯科)

元開早絵(日歯大口腔リハビリテーション多摩クリニック)

大平真理子(東歯大・口腔健康科学・パーシャルデンチャー
補綴学)

奥野健太郎(大歯大・高齢者歯科)

長谷剛志(公立能登総合病院歯科口腔外科)

高井英月子(阪大病院・顎口腔機能治療学)

吉住 結(さいたま赤十字病院口腔外科)

編集後記

最近、テレビや新聞などで「フレイル・オーラルフレイル」などはもちろん、在宅診療、訪問看護師などの活動を見聞きすることが増えている気がします。このニュースレターも4ページから6ページに拡充されて久しいですが、これもその一端ではないかと感じています。今後も、皆様に有益な情報をHP、SNSと併せてお届けしていきます！
(河相安彦)



発行人 佐藤裕二

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp